

恩師訪問

菊池勝俊先生

母校で勤務された方を訪問する「恩師訪問」。第十五回目の今回は地理教師の菊池勝俊先生。九月二十八日、武内伸文広報委員(平2卒)が先生の御自宅に訪問し、お話を伺った。

秋高に勤務していた頃のことをお聞きしたいのですが

私がお世話になっていたのは、昭和六十三年から平成六



球根農家調査の合間に平成20年(新潟県)

年までの七年間です。丁度、赴任した昭和六十三年には、初めて六十五分授業が導入され、文部省の研究指定校の公開もあるなど、秋高が少しずつ動き出す時期にあたっていました。授業の仕方や補習指導の在り方が見直され、学校がより生徒の実態に合わせられるようになりました。

また、平成五年には、秋高が創立百二十周年を迎えました。記念行事の一環として、大先輩の明石康国連事務次官による講演が行われ、その中に、秋高生による国際平和に

ついでにのデイベータリングが組み入れられて、大変な盛り上がりを見せました。生徒指導主事として生徒会を担当していた私も参加させてもらい、感激に浸りました。

生徒からも拍手

地理の公開はしましたか？

「地域のなりたちと生活」の単元を、秋田県内の雄物川蛇行帯と天王砂丘を比較しながら説明しました。授業では生徒全員を指名するように努めました。授業終了後、生徒と授業参観者から一斉に拍手をもらいました。

統計資料など利用

地理の学習は独特だと聞いてますが

自作プリントで授業 生活習慣固め反復学習を

地理の授業で使用している自作プリントを譲って欲しいと、仙台からわざわざ学校に訪ねてきた予備校生がおりました。

地理の難しさは、教科書その他に、地図帳や統計資料を利用して、総合的に理解をしなければならぬことです。ここに、要領よくまとめられたプリントが生きてきます。さらに、授業では、早く総合的な理解ができるようにと、基礎力テストを繰り返し行いました。中には、合格までに

五回以上もかかった生徒がおりました。地理選択者が、地理ばかりを勉強していると、他教科の先生方から陰口をたたかれていたとのこと。

後年、大学入試センター試験で、秋田県の地理Bの結果が全国一位となったのは、秋高生のがんばりがあったからに他ならないと思っています。

花卉の栽培を調査

若い時から地域調査や学会発表をしてきたそうですが
幸い何度か、斎藤憲三顕彰

会や文部省の研究助成金を受領しましたので、秋田県内を初め、東北や北陸地方の花卉栽培を調査し、いろいろな大学で発表することができました。秋高の卒業生を名乗る大学の先生が、挨拶に来られることもしばしばでした。改めて、秋高生の素晴らしさを知られました。

千球の花を植える

現在、どんな風にお過ごしですか
退職後の二年間は、NHK

学園の、秋田県の責任者をやりました。また、北海道の旭川市で、ガーデニングプログラムについて発表する機会がありました。そのついでに、懸案であった県北の旧比内町から送られたバラの幼苗(小倉ばら園生産)が旭川市や札幌市から道内に広がっていく道筋を追っかけてみました。ただ、時間の関係で途中で断念しましたが、今後の楽しみにしています。

現在は、花壇にユリやチューリップなどを千球程植えて過ごしています。開花時には、地元保育園やお年寄りが集まる憩いの場となっています。健康にはとてもいいようです。

何事も基本が大事

最後に、秋高生に何を望みますか？

何事も基本をおろそかにはできません。まず、生活習慣を固め、次に、学習を反復することです。そうすれば、学府でも、実社会でも、大きく羽ばたくことができるものと信じています。

◎高校での授業がいかに社会に通じていたのか、改めて実感させられました。今後の人生の糧となる多くの応援メッセージをいただいた特別授業のような訪問でした。



後輩に夢を託したカプセルの前で平成五年(生徒会担当の三人)